



デザインと 観光から読み解く 近代京都のモダンライフ

同志社女子大学今出川講座



【日時】

2026年10月31日(土)
13:00開会(12:30開場)

【会場】

同志社女子大学 今出川キャンパス
楽真館ラーニング・コモンズ イベントエリア

京都市上京区今出川通寺町西入

・京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅③出口より東へ徒歩約5分

・京阪本線「出町柳」駅③出口より西へ徒歩約10分

※駐車場はございませんので、公共交通機関にてご来場ください。

【お申し込み】

参加費無料

事前申し込み制

お申し込みはこちら



ご参加にあたり、特別な配慮をご希望のかたは、
下記お問い合わせまでご連絡ください。

第一講座 13:00～13:45

サイトシーイングを超えて
—近代京都における

インバウンド観光客、1872年～1941年—

アンドリュー・C・エリオット

Andrew C. ELLIOTT 本学 学芸学部 国際教養学科 教授



多くのインバウンド観光客にとって、近代京都への訪問はガイドブックに載っている寺社仏閣やその他の名所を巡るだけにとどまりませんでした。歴史的な名所と同じくらい重要な—あるいはそれ以上に重要だったかもしれない—のは、近代的なホテルやレストランでの消費体験、人力車や舟遊びといった娯楽、買い物、そして街をぶらぶら歩くことでした。本講座では、1870年代から太平洋戦争にかけての京都におけるインバウンド観光を「非見物」的な視点から捉え、観光客の欲求や体験、そして市の観光業の対応について考察します。

第二講座 14:30～15:15

大正のきもの文様にみるモダンデザイン
—武田五一が伝えたセセッション様式—

ふじもと じゅんこ

藤本 純子 本学 生活科学部 人間生活学科 教授



本学今出川キャンパスの「モダン建築」が建てられた大正から昭和初期にかけては、日本の暮らしに欧米文化が積極的に取り入れられ、新しい生活文化が育まれた時代でした。当時、女性の装いの中心はきものでしたが、その文様にも欧米のデザインの影響を受けた新しい表現が見られるようになりました。本学の栄光館・ジェームズ館の設計者として知られる武田五一は建築家であると同時に、欧米の新しいデザイン思想、とりわけウィーン・セセッションを日本へ紹介しました。本講座では、その足跡を当時のきもの文様にたどりながら、日本の近代デザインの特徴とその魅力を探ります。

京都モダン建築祭同日開催

本学は、2026年京都モダン建築祭に参加しています。当講座にご来場の方は建築祭パスポートを所有されていなくても、公開建物(栄光館・ジェームズ館)に入館いただけます。



同志社女子大学
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Founded in 1876



お問い合わせ

同志社女子大学 広報部広報室広報課

TEL:0774-65-8631 / E-mail:koho-t@dwc.doshisha.ac.jp

受付時間〔平日〕 9:00～17:00(11:30～12:30閉室)